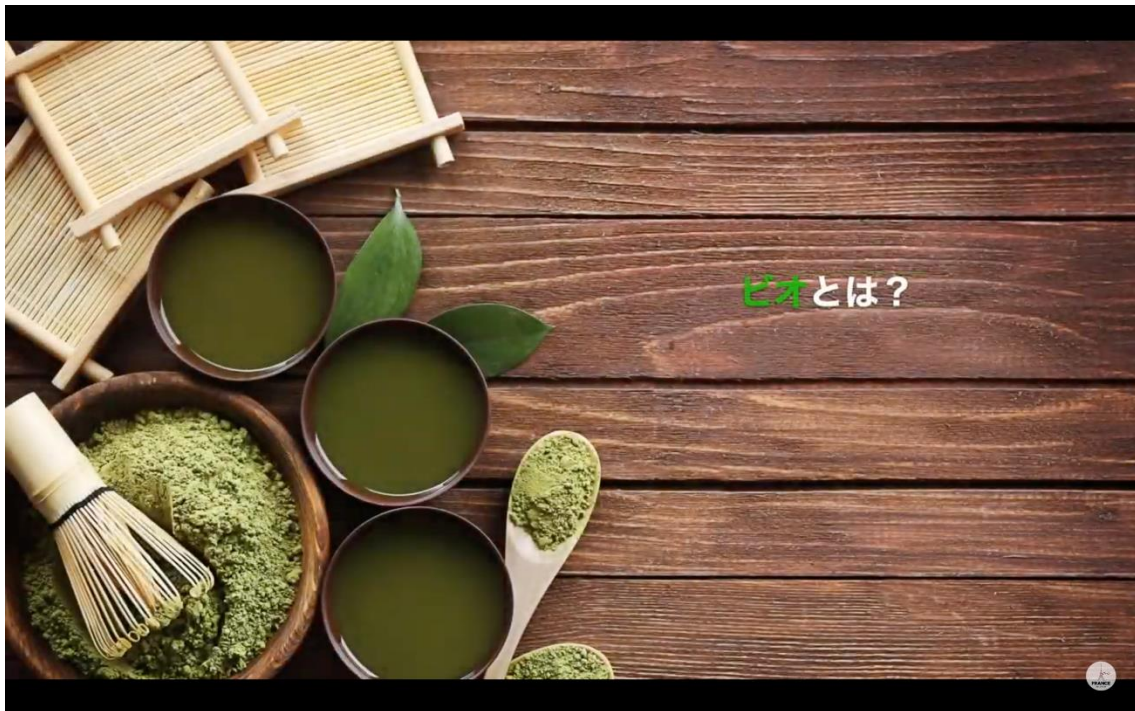




フランス農業・食料省主催
パネルディスカッション「BIO を理解する」
YouTube にて公開

フランスでは、農薬や肥料を極力使わない自然な農産物「ビオ」が長い歴史の中で発展を見せ、ビオは、今日、農産物全体の14%に達しています。一方、日本では、1970年代より地元生産者と消費者が連携しながら徐々にビオが根付き、2001年には有機JAS認定が開始、現在、有機農産物は日本の食品市場全体の1.5%を占めるに至っています。

先日、日仏両国の専門家が、日仏両国のビオの現状を総括、その将来について分析し、三つのテーマに沿ってパネルディスカッションが開催されました。

そしてこの度、その内容がYoutubeにて閲覧可能となりました。

以下、テーマとパネリストをご紹介します。

討論1: BIO を理解する

パネリスト①ファビエン・ジロー氏:ピレネー州羊協議会取締役:ピレネー子羊生産者

パネリスト②須賀 利治氏:有限会社豆太郎 代表取締役:自然農法による野菜生産者

・ビオは益々世界で拡大傾向にあるが、ビオは時代の逆行になるのか？

ビオは今後人々を養っていけるのか？

・ビオ製品と従来型の慣行農産物食品(健康食品)との違いとは？

・農薬、または除草剤を使わない栽培方法とは？

<https://www.youtube.com/watch?v=HUYwXPWrWAg>

報道関係者各位

討論2: 健康と栄養

パネリスト①パスカル・ジェルベール=ガイヤール氏:バイオセボン・ジャパン株式会社 マネージャー

パネリスト②黒岩 典子氏:和のかし巡 代表／菓子職人

- ・バイオ食品は消費者にとってより安全かどうか？
- ・栄養価と味について

https://www.youtube.com/watch?v=Ko_mjfD43dg

討論 3: 農業と環境 地球規模のチャレンジ

パネリスト①ピエール・ブジョス氏:

シリアル・バイオ食品生産者、農業従事者団体「AGRIVALEUR」メンバー、「アルブル & バイザージュ」協会会長

パネリスト②徳江 倫明氏:一般社団法人フードトラストプロジェクト代表

- ・バイオ農業の収穫量は十分か？
 - ・なぜバイオ製品は従来品よりも高いのか？
 - ・日本におけるバイオ農業の現状、そして未来は？
 - ・地球の未来におけるバイオ農業の役割とは？
- 課題: 地球温暖化、温室効果ガスなど環境に果たす役割

<https://www.youtube.com/watch?v=QZdyPLEh2w4>

本件に関するお問い合わせ先：

フランス食料・農業省主催討論会「BIOを理解する」事務局

SOPEXA JAPON 内

Tel:03-5789-0083／ pr_jp@sopexa.com

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-12-8 3F